

第 16 回委員会会議結果概要（案）

	要 旨
第 16 回 会 議	<p>○第 15 回委員会の開催結果概要</p> <p>前回委員会の結果概要について、資料 1 により確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑なし。 <p>○平成 20 年度実施計画（案）</p> <p>資料 4・資料 2 により事務局から説明があり、その後、質疑応答が行われた。</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <p><竹川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 20 年度のモニタリングについて詰める際に、2 つの評価委員会小委員会の意見はどの場で組み込まれるのか。 <p>→事務局回答</p> <p>1 1 月 1 9 日開催第 5 回評価委員会の意見を受けた後、護岸検討委員会において委員から意見をいただき、実施計画に修正を加えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理環境の検証に関し、滞筋を完全に除いてしまうのはどうかと思う。 ・測線を沖合方向に 1 0 0 m くらい延ばしてほしい。 <p>→事務局回答</p> <p>例えば、護岸から 1 0 0 m 範囲の測量について、2 0 m ピッチを 5 0 m ピッチにし、それに替えて 1 0 0 m から沖合を加えるという方法がある。</p> <p><及川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・転落に対する対処に際し“浅場をつくり対応”とあるが、絵をみると石が置いてある。でも、石を置くとカキが必ず付き、同じことになるので、よく考慮してレキを入れなければならないと思う。 <p><倉阪委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レキを入れるのが望ましい姿なのか、議論する必要がある。短期間で安全な砂場を確保するには、レキのようなものを入れて、その上に砂を置くことになると思うが、長期的に考えるなら、将来的には水路が埋まって安全な形で干出域が出ていくという方向を目指すことも考えるべきだと思う。 <p><上野委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レキを入れると、カキ礁をつくっていくことになると思う。潜堤を検討していかないといけないと思う。 <p><工藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸において、侵食域と堆積域を確認し、トンボロをつくらせることを考えると、滞との間くらいに波よけを置くとか、砂を集めておくということを考えないといけない。ごく自然に積み上がっていくようなところへ砂をある程度先に入れて、早くから効果を出す、そのような考え方をするのが一番よい。

	要 旨
第 16 回 会 議	<p><歌代委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3案の完成形は、現在完成している20mの完成形と同じものか。 <p>→事務局回答</p> <p>平成18年度に“より良い工夫”として考えられた新しい断面をどこかで作り、評価していこうという内容で、現在と同じものではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・捨石、H鋼杭・鋼矢板を先行し、全体的なバランスを考えて完成形をつくっていくのがよい。 <p><田草川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅場はあまりレキにこだわるのはどうかと思う。砂であれば大変効果は大きいのではないか。砂をどこかに置くなどして、自然に近い形の干潟ができるようにしてほしい。 ・被覆石の目つぶし材は、どうして砂ではなく石にこだわるのか。 <p>→事務局回答</p> <p>砂を入れた場合、降雨などにより泥水が海域に流れ出すことを考慮して砕石とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑化試験のB案はあまり意味がない気がするので、A案がよいと思う。 <p><竹川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レキを入れて砂という理屈は、あまり現実性がない感じがする。 ・第3案ぐらいがいいと思う。 <p><上野委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・もし、砂を入れるなら砂質についても考えないと、生物相が変わってしまう。将来的なことを見据えて議論していかないといけない。 <p><遠藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・“より良い工夫”については、勉強会・委員会における意見への対応策として、「例えば」ということで提案されているというように考えればよい。平成20年度の計画がはっきりしない状態では決めようがないと思う。 <p><及川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全第一で、第1案を推薦する。緑化試験は、B案の場所にA案の方法で実施してみたらどうかと考える。 <p><上野委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸性の植物は、ある程度群生である。面積は大きい方がいいと思う。 <p><倉阪委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成しているところは、吸出し防止シートが入っていないため、A案でやってみるべきだと思う。 <p><三橋委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物の育つ環境をつくれれば勝手に生えるのではないか。環境づくりの方が先なのではないか。

	要 旨
第 16 回 会 議	<p><工藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・苗づくりをするには、B案も必要である。 ・第1案と第3案は、陸域のH鋼杭+鋼矢板の未完成部分の長さが70m違うだけである。 ・第1案の場合は、H鋼杭+鋼矢板をその次にすぐ着手するのか。また、第3案の場合は、完成形をぼつぼつ施工していくのか。 <p>→事務局回答</p> <p>平成20年度に議論することとなる。</p> <p><倉阪委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1案と第3案のメリット・デメリットがほぼ同じなので、補足説明があればお願いしたい。 <p>→事務局回答</p> <p>第1案は完成形をつくらないが、第3案は18年度の新しい断面（乱積み、緑化、のり肩を丸くした状態など）を40mほど確認できる。</p> <p><歌代委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・40mぐらいの完成形で全体を見ることはできない。 <p><田草川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2案がよい。一旦完成形を見てみたい、場所はどことは言わないが。 <p><遠藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度実施計画は、今回の委員会で決めなければいけないのか。 <p>→事務局回答</p> <p>11月27日の再生会議へ報告できるように、11月22日に予定している第17回委員会で決めることとなる。</p> <p><工藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2案は台船使用とあるが、第3案には台船のことは書いてない。 <p>→事務局回答</p> <p>海域工事は捨石356mが限界である。第3案は工事用車両の出入りがしやすく延長が短いため台船のことは書いていない。</p> <p><倉阪委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・370mと300mの選択なら、新基本断面をつくってみる第3案が望ましいと思う。第2案は、バリエーションを検討する時間が若干足りないと思う。 <p><工藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2案と第3案で現地を見る際に、見やすさに差があるか。 <p>→事務局回答</p> <p>第2案で中央部から工事を行う場合、工事中に入るのは難しいが、第3案は今と同じような環境になるので、見やすいと思う。</p>

	要 旨						
第 16 回 会 議	<p><工藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングに際し、生き物に関して言うと、入植者は隣接したところから入植するのが一番多い。①の工区は既に完成形があるので、子孫が入植したりして復元の期間が短縮できると思う。安全性の確保について、さほどの時間的差が生じないことが保証されているなら第3案を支持したい。 <p><及川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成形のところで石が陥没したが、捨石をして即、大きい石を載せたことと関係あるのか。 <p>→事務局回答</p> <p>一気に施工した場合と段階施工した場合で、挙動は違ってくると思う。捨石を安定させ、時間が経ってから被覆石を載せれば、被覆石の挙動を少なく抑えることができると思う。</p> <p><工藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2案相当のものを第3案の場所で施工というように、意見を修正する。 <p><歌代委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3案の40mの完成形はこれから考えるのか。 <p>→事務局回答</p> <p>平成18年度の新断面で施工するというので、これから断面を決めるわけではない。</p> <p><歌代委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の面は、地元では非常に不評である。 <p><竹川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18、19、20年度の予算について知りたい。 <p>→事務局回答</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">平成17、18年度</td> <td style="padding-left: 20px;">260百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">平成19年度</td> <td style="padding-left: 20px;">350百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">平成20年度</td> <td style="padding-left: 20px;">実施計画を決めてから算出する。</td> </tr> </table> <p><遠藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・40mの完成形の範囲というのは、何か制約があるのか。 <p>→事務局回答</p> <p>①の100mの工区は、陸側の杭を打ち笠コンクリートの施工が終わっている部分で、海側の工事がしやすい。</p> <p><後藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかく今まで検討してきた平成18年度の断面があるので、第3案でやっていった方がいい。緑化試験については、ポットで苗づくりをする準備をしておいてもいい。そして、少し広めのA案のなかで緑化試験をやってもいいと思う。 	平成17、18年度	260百万円	平成19年度	350百万円	平成20年度	実施計画を決めてから算出する。
平成17、18年度	260百万円						
平成19年度	350百万円						
平成20年度	実施計画を決めてから算出する。						

	要 旨
第 16 回 会 議	<p><遠藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、第3案のような形とし、断面については検討していくこととする。 <p><倉阪委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日はいない委員もいるので、次回に最終決定した方がよい。 <p>○工事1年後の検証・評価（防護・環境・景観）</p> <p>資料3により事務局から説明があり、その後、質疑応答が行われた。</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <p><及川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸川の放水に係るゴミだけでなく、日常的なゴミも含めてゴミの問題を検討してもらいたい。 <p><倉阪委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・“ゴミのない海岸”となっているのは、持ち込むゴミへの懸念がかなり多いのだと思う。 <p><三橋委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価委員会の意見は了解していると思う。 <p><宮脇委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの因子分析結果によると、「親しみやすい」と「うるおいのある」が一番強く因果関係があり、いわゆる親水性だと思うが、そういうものへのつながりが非常に強いという結果が出ている。また、因子をキーワードに置き換えると、1番目は「楽しみ」「親しみ」、2番目は「安全性」、3番目は「デザイン」、4番目は「自然度」であり、一般の人々が求めているものは「楽しみ」、簡単に言うと「娯楽」なのだと思う。 ・因子分析の結果を、次回委員会で見せてほしい。 ・“利用”“防犯”に関する意見が多かったということを開示してほしい。 <p>→事務局回答</p> <p>今後、専門の方にご指導をいただきながらアンケート結果を整理し、バリエーションの検討にあたり、皆さまに資料として提示していきたいと考えている。</p> <p><竹川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・浮泥部分について、どのように測量しているのか。 <p>→事務局回答</p> <p>水域については音探、潮間帯については汀線測量を行っている。浮泥の厚さは測定していない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂を入れる問題、また砂がどのように動いていくのか検討してほしい。 <p><遠藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・測量に関し、技術的にはいろいろな方法があるが、今は過渡期なのであまり細かく議論せず、少し長期的なスパンでみた方がよいと思う。

	要 旨
第 16 回 会 議	<p><後藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対照測線はどこに設けるのか。 <p>→事務局回答</p> <p>2丁目と3丁目の境あたりに、環境基礎調査におけるL-3という測線があり有効だと思う。ただ、条件が違ってくるので対照測線となるか疑問がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価委員会で専門家の意見を聞いておいた方がよい。 <p><後藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1工区東側の端部において、砂の動きや生物の定着について確認したい。 <p><遠藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある程度、工学的な予測も立てて検討していくといいと思う。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回第17回委員会は、11月22日に開催予定の旨、事務局から説明があった。 <p>[意見]</p> <p><澤田委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事箇所は立入禁止だが、中に入って釣りをしている人が多い。きちんと管理した方がよい。 <p>○傍聴者からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転落防止柵をきちんと設置する。浅場は砂を入れずにレキぐらいで止めておくべきである。 ・ウネナシトマヤガイは、調査方法がおかしいので“確認できなかった。参考としてこういうのがあった。”としてほしい。 ・マガキの施工前における低潮帯の着生面積の値は、事実と違うのではないか。 ・貝類の数は目標に達していない。 ・環境の検証に関し、「機能として発揮している」はおかしく、「施工前の程度には達していない」とすべきだと思う。